



2014  
8.23Sat-24Sun  
in  
福島

福島原発事故から3年  
よみがえれ!  
福島  
"生きる""耕す"  
有機農業のつどい



## よみがえれ！福島 都市と農村が共生する新しい有機農業の時代へ

全有協通信 19号では、去る8月23日と24日、福島県において開催された視察および集会「よみがえれ！福島 “生きる” “耕す” 有機農業のつどい」について、ダイジェストでご報告します。「よみがえれ！福島」は福島県有機農業ネットワーク、全国有機農業推進協議会、日本有機農業研究会、有機農業参入促進協議会、アイフォーム・ジャパンの5団体が共同代表となり、パルシステム生活協同組合連合会、大地を守る会、秀明自然農法ネットワーク、民間稲作研究所、アフラス認証センターなど10団体を加えた実行委員会によって開催されました。

ツアーには76名、集会には115名参加があり、「よみがえれ！ふくしま 有機農業のつどい宣言」が採択され、続く10月にはトルコ・イスタンブールでの第18回アイフォーム世界大会（総会）で、アピールされました。来る11月28日には、東京で一連の会合の報告会および農水省との意見交換会の開催を予定しています。

宣言の全文はウェブサイト「ゆうきひろがる」でも公開しています。最後の一文を引用します。「食料と再生可能エネルギーと地域コミュニティの持続可能なくらは農村にこそ育まれること、その地域再生のために都市と農山村が共生する新しい有機農業の時代を創っていくことを、ここふくしまから宣言します」。



### 農家と研究者による共同調査から見てきたもの

大型バス 2 台と乗用車に分乗して、76 名の参加者は郡山から二本松、飯舘村、南相馬を訪問し、飯坂温泉で宿泊、懇親会を持ちました。二本松では大内信一氏、菅野正寿氏の圃場と道の駅ふくしま東和を視察、農家住民と大学研究者による共同の実態調査で見えない放射能の見える化に取り組んできた 3 年半の経験を学びました。山林の汚染の深刻さ、山からの水に含まれるセシウムの影響など今後も課題は山積していますが、2013 年の福島県の玄米の全量全袋検査の結果、99.99%が 10bq/kg 以下、野菜類においても耕して作付けしたものは不検出である事がわかりました。放射能に汚染されてしまった農地の再生において、粘土質と腐植の複合体である肥沃な土壌、つまり土壌微生物の多い有機的な土づくりがセシウムを強く土中に固定化する事が実証されてきた事は大きな希望です。

飯舘村では国による大規模な除染の実態を、南相馬では稲作の試験圃場と市民放射能測定室を視察し、浜通りの現状を学びました。土壌のセシウム含量は東和地区と比べて低いにも関わらず、南相馬市が発表した全袋検査の結果では、約 40%の玄米で 50bq/kg 以上となりましたが、その原因として考えられるのが、農業用水に東和と比べて 5.5 倍の溶存態放射性セシウムが含まれていたことです。

全国各地からの参加者にとって、福島の有機農業者が行っている除染や移行低減の取組みと、政府の表土を剥ぐような除染の違いを学び、地形、気候、土壌など異なる農地の多様性を理解し、詳細な調査を農業者自らが自立して行う意義を改めて学ぶことができた視察となりました。





## 福島から世界へ宣言 有機農業が復興への光

翌 24 日には「パルセいいさか」にて、集会が開かれ、115 名が参加しました。第一部は「福島現地 3 年間の振り返りと現状」と題して、菅野正寿氏がコーディネーター。パネラーとして石井秀樹氏(福島大学特任准教授)・野中昌法氏(新潟大学教授)・伊藤俊彦氏(J-RAP 代表取締役)が報告し、議論を持ちました。実態を農家自身が測定し、知ることが復興・振興の起点であり、地元で愛されてきた地域資源を循環する有機農業技術、在来品種の大豆の安全性、伝統的な桑の加工品や露地野菜の安全性が最優先すること、生産者・消費者・流通・学者が一体となり交流とノウハウの共有を続けていくことの重要性が提起されました。

第二部は「有機農業－放射能対策の取り組み」をテーマに、チェルノブイリ・中部の河田昌東氏がコーディネーターし、魚住道郎氏(魚住農園)・稲葉光國氏(グリーンオイルプロジェクト代表)・杉内清繁氏(南相馬農地再生協議会代表)が報告しました。南相馬の「グリーンオイルプロジェクト」は、ヒマワリ、菜種、大豆などの油脂作物を搾った油にはセシウムが移行せず、水とくっつく性質を持つ(水溶性)セシウム 137 とストロンチウム 90 は、菜種油やバイオマス発酵ガスには入り込まない性質があることに着目したプロジェクトで、エネルギーの自給と土壌の回復につながると、参加者の注目をあびました。水田での「菜種－稲」の 2 毛作、畑での「菜種→ヒマワリ→大豆」の輪作に取り組んでいます。相馬農業高校農業クラブの生徒たちが

「油菜ちゃん」と命名した菜種油の紹介と販売も行われました。低い自給率、トランス脂肪酸汚染油、遺伝子組み換え、ネオニコチノイド農薬などの問題に対するオルタナティブとしても重要な意義を持ちます。

第三部のテーマは「消費者・流通の取組み」です。パルシステム生活協同組合連合会の高橋宏通氏がコーディネーターを務め、大内信一氏(二本松市有機農家)・佐々木博子氏(パルシステム生活協同組合連合会)・戒谷徹也氏(大地を守る会)・若島礼子氏(日本有機農業研究会)がパネラーとして登壇しました。放射能汚染によって断ち切られた生産・消費の提携関係について、生産者・流通による取り組みが紹介され、生産者の声を消費者に届け共に考えること、消費者に内部被ばくを軽減する食べ方などを伝えていく重要性などが提起されました。

集会の終わりに、福島県有機農業ネットワーク代表菅野正寿氏が起草した「よみがえれ！ ふくしま 有機農業のつどい宣言」を参加者一同で採択しました。閉会の言葉として、全国有機農業推進協議会の金子美登氏が「都市や工業・命が見えない文明からは展望がない。もう一度私たちはいのちめぐる農村から一緒になってコミュニティ・共同体を作っていく時代へと提言してゆくネットワークを作ろう」と締めくくりました。

【参考情報】ウェブサイト「ゆうきひろがる」

URL : <http://www.yuki-hirogaru.net/>

## 全有協からのご案内

### ウェブサイト「ゆうきひろがる」 運営ボランティア募集

全国有機農業推進協議会が運営する有機農業ポータルサイト「ゆうきひろがる」およびfacebook ページの更新を担当していただけるボランティアを募集します。活動場所は全国どちらからでも参加できます。希望される個人・団体は、全有協事務局（担当：鈴木）までご連絡ください。

●有機農業ポータルサイト「ゆうきひろがる」

<http://www.yuki-hirogaru.net/>

●Facebook ページ「ゆうきひろがる」

<https://www.facebook.com/organic.jp>

【問い合わせ】

Email: [yukipota@gmail.com](mailto:yukipota@gmail.com)

電話: 070-6362-0601



ゆっぴー

### 一楽忌 一楽思想を語る会

【日時】11月9日（日）

【会場】ゆうきの里さんさん

（山形県東置賜郡高畠町

大字上和田 1282）

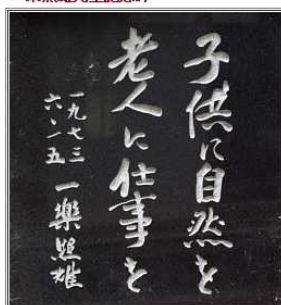
【問い合わせ】

0238-58-3060（8:30～17:00）

今年の講師は、全有協理事長の金子美登氏です。

Email: [sansan@takahata.or.jp](mailto:sansan@takahata.or.jp)

一楽照雄先生記念碑



一楽照雄：人間の自立と互助を根底にすえ、協同組合運動に情熱を注いだ一楽照雄氏。協同活動の目的は、構成員の暮らしを守るだけでなく、公正な社会の実現にあるとした。あるべき姿の農業に思いをめぐらし、有機農業を提唱し、生命と環境を何より大切にする社会を描き、1971年に日本有機農業研究会を設立。幾度も高畠町を訪れ、若い農民たちの志に点火し、高畠町有機農研の誕生を促した。氏の高い理想と哲学は、世に一楽思想と呼ばれすぐれた指導性によって有機農業の師匠と敬われている。

### IFOAM 世界大会および 福島県有機農業のつどい 報告会および農水省意見交換会

<http://www.maff.go.jp/press/seisan/kankyo/140425.html>

10月13日～17日にトルコ・イスタンブールで、3年に一度のIFOAM世界大会が開催され、国際的な有機農業の諸問題やトレンドについて話し合われました。

11月28日には東京にて、日本からの参加者による8/23福島現地見学・8/24福島現地セミナーとIFOAM世界大会の合同報告会を開催します。合わせて農水省との意見交換会も予定しています。奮ってご参加ください。

①農水省との意見交換会

【日時】11月28日（金）10:00～12:00

集合9:45 正面玄関待合コーナー

【会場】農林水産省生産局第4会議室（2階）

東京都千代田区霞ヶ関1-2-1

②福島有機農業のつどいと有機農業世界大会の報告会

【日時】11月28日（金）13:00～16:00

【会場】衆議院第二議員会館多目的ホール

（住所：東京都千代田区永田町2-1-2）

【問い合わせ・お申込み】

特定非営利活動法人アイフォームジャパン

東京都港区新橋4-30-4 藤代ビル

株式会社アフアス認証センター気付

03-6809-0824/FAX 03-5400-2273

E-mail [organic@ifoam-japan.net](mailto:organic@ifoam-japan.net)

当日の連絡先：渡邊義明 090-4759-7879

【呼びかけ】

**福島原発事故から3年 よみがえれ！福島 “生きる”  
“耕す” 有機農業のつどい実行委員会共同代表5団体**

福島県有機農業ネットワーク 理事長 菅野正寿

全国有機農業推進協議会 理事長 金子美登

日本有機農業研究会 副理事長 魚住道郎

有機農業参入促進協議会 代表理事 山下一穂

アイフォーム・ジャパン 理事長 村山勝茂

全有協通信 No. 19（発行：2014年11月1日）

発行人 金子美登（発行元 特定非営利活動法人 全国有機農業推進協議会）

住所：〒135-0053 東京都江東区辰巳1-1-34 生活協同組合パルシステム東京辰巳ビル3F

電話：03-6457-0666 FAX：0475-89-3055

Email: [info@zenyukyo.or.jp](mailto:info@zenyukyo.or.jp)

公式サイト: <http://www.zenyukyo.or.jp>

事業サイト: <http://www.yuki-hirogaru.net>

【全有協にご入会ください】（年会費1口 正会員：個人1万円/団体5万円、賛助会員：個人3千円/団体1万円より）

口座：ゆうちょ銀行振替口座（支店コード：019店）00180-7-687517（当座）

名義：特定非営利活動法人 全国有機農業推進協議会

通信欄に「全有協会費（個人・団体）、口数、お名前、ご連絡先、ご所属等」をお書きください。